

編集長：未来予報家

「日本の少子化問題」を考える



わが国の合計特殊出生率は平成17年には1.26人まで下がり、現在では1.32人と推計されています。出生率が2.0人以上で現状維持が見込めるわけですから、確実に少子化していることとなります。翻ってわが国の65歳以上人口は「人口推計」によると23.1%とされています。考えたくもありませんが日本人が5人いれば1人は65歳以上の高齢者ということです。わが国は世界のどの国も経験のない少子超高齢社会へと突き進んでいます。しかし幸いなことに死は等しく平等に訪れます。どんなに偉い人も生きながらえたためしがありません。確率100%です。だから私も含め今65歳を越えた方は50年先にはおそらくほとんど死んでしまいます。ただし問題は若い世代の減少を、少子化を食い止めるにはどうすればよいかということです。手を打つなら今です。民主党は子ども手当を減額しますが、私は月に5万円を考えて良いと思います。この場合の財源はNTT株を使えばいくらでもお札を刷れるように出来るはずで、政治家の英断を期待しています。しかし、快適で住みよいはずの現代社会で、なぜ少子化するのでしょか、はなはだ疑問であります。あしからず。

「夢のひとり暮らし」

僕は、現在病院の前にある「アプリコットハイツ」というアパートに住んでいます。去年の10月にグループホームの「あゆみハイツ」からそのアパートに引っ越して3ヵ月経ちます。

あゆみハイツに住んでいた時は、ひとり暮らしの練習をするために、ご飯を炊くことから始めました。味噌汁や卵焼きはすぐに作れるようになり、ポテトサラダやほうれん草のおひたしなどレパートリーも増えました。その他、洗濯・掃除などの家事や、1ヶ月分のお金のやりくり、電車やバスに乗れるようになることを頑張りました。約1年半の練習のおかげで電車やバスに乗れるようになり、家計簿をつけて計画的にお金を自分で管理することが出来るようになりました。こうしてひとり暮らしの自信がついたので「アプリコットハイツ」に引っ越すことを決めました。ひとり暮らしは自分の一番の目標だったので引越しが決まった時はドキドキワクワクして嬉しかったけど世話人さんがいないので少し不安にもなりました。

引越しの日には両親も来てくれました。世話人さん達も引越しを手伝ってくれました。もちろん僕も頑張りましたよ。両親はひとり暮らしを始める僕に「よかったやんか」と言ってくれました。両親からの言葉はとても嬉しかったです。

さあ、夢にまで見たひとり暮らしが始まりました。でも色々な苦労がこの3ヶ月の間だけでもたくさんあったんです。まず、一本松の駅が近いので、汽車の音がダンプカーの音のように聞こえてとてもうるさかったです。でも今ではほとんど気にならなくなりました。

それから、あゆみハイツではガスコンロで料理をしていたのですが、アプリコットハイツは電気コンロなのでかなり苦戦しています。すぐにお湯が沸かないんですよ！！。せっかくあゆみハイツで練習して作れるようになっていたカレーの煮付けも作りにくくなってしまいとても残念です。だってすぐにお湯が沸かないんですよ！！今では少し寝坊して料理をサボってしまうこともあります。だってだってすぐにお湯が沸かないんですよ！！

でも電気コンロになって良かったこともあります。あゆみハイツではガスコンロが故障した時にガス屋さんに連絡して直るまでにずいぶん時間がかかりました。4、5回ぐらい故障してそのたびガス屋さんに連絡しました。今は故障することはありません。故障といっても塩コショウじゃありませんよ・・・冗談です。

でも一番心配だったのが、不眠症に悩まされたことです。引越しをして最初の1週間はぐっすり眠れたけど、急に眠れなくなってしまいました。いつものようにベッドに横になっていてもなかなか寝付かず、アプリコットハイツの住人と上手く付き合っていけるか、電気コンロで食事が上手に作るか、など色々考えてしまい、考えれば考えるほど眠れなくなってしまいました。眠れない時期には退院してからあまりなかった幻聴も聞こえてきて怖いなぁと思いました。そんな状態が3週間ぐらい続きましたが、その後は次第に幻聴もなくなり夜もいつもどおり眠れるようになりました。時が流れるままに治りました。自分では引越しをして環境が変わったのでドキドキワクワクの期待と不安でこんな風になってしまったのではないかと思います。でも大変なことばかりではありません。アプリコットハイツに

行って好感を持てる場所は、トイレとお風呂が別なことがとっても良かったです。あゆみハイツはトイレとお風呂が一緒だったのでトイレの床に座ってお風呂に入っているような気持ちになり何だか不潔なようで気持ちが悪かったです。

バス・トイレ別はサイコー！

というのはちょっとした好感を持てるところで、やっぱり一番良かったことは、ひとり暮らしが出来たということです。

あゆみハイツにいた頃は優しい言葉をかけてくれる世話人さんがいてくれましたが、毎週ミーティングがあったり、休みの日は管理当直が来たりして、その時は何も感じなかったけど、今考えると縛られているように感じます。今は世話人さんがいなくて心細い時もあるけど、自分で自由に時間を使って自由に生活することができます。開放的な気持ちになりました。でも自分のチカラで生活することは、自由はあるけど自分で何でもしないといけないので大変です。時々料理をさぼったり朝は寒くて布団から出たくなかったりもするけど、不安になることなくゆとりを持って生活できていると思います。少しぐらい出来ていなくても自分のペースで生活できています。それはあゆみハイツに住んでいた頃にデイケアの活動で練習したり、世話人さんと一緒にひとつずつ一生懸命練習してきたおかげだと思っています。ひとつひとつをきちんとしていなくてもひとりでも生活できるんだ、大丈夫だ、と自信を持っているからだと思います。ということでアプリコットハイツの生活はいろんな苦難を経て今まで頑張ってきました。

夢のひとり暮らしは快適です！！アプリコットハイツでひとり暮らしをするという目標は達成できました。今後の目標は今はまだ考えられないけれど、今の生活を安定させてから引越しや仕事のことをゆっくり考えたいと思います。

みなさん！ととのいました！！

「アプリコットハイツでのひとり暮らし」とかけまして「プレゼント」ととく、そのころは どちらも「こうかん」があります。こうかんがえましてありがとうございました。

2011年1月29日
(ペンネーム：もっくん)

発表していただいた二人のメンバーさん(VOL7参照してね)、本当にお疲れ様でした。さて、この発表をきいてお気づきいただけたと思います。彼らはいずれもデイケアを踏み台に、より主体的に生きる方向へと歩みはじめました。プログラムが「職員の気休め」とか「個々人の成長を止めることが多い」という指摘(岩崎学術出版社『精神科デイケアの実践研究』より)があるように、私たち職員にセルフチェックは欠かせません。普遍的真理の追究は無論、彼らのように一人ひとりが地域の中で暮らしていくために必要な手立てとは何か、その土地土地の地域社会に根ざしたプログラム作り、生活環境に合わせたプログラム作り、その中で個人の能力が引き出されるプログラム作りなど、プログラム作りは地域生活から学ぶ必要があることがわかってきました。今回の結果はそういったメンバーさんとスタッフが協同して作り上げたプログラムや関わりが具体的な形となって現れてきたものと受け止めています。その意味で彼らの行く末がまるで自分のことのように思えてくるのも事実です。見守りたいと思います。

(筆名：もじろう)